平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月6日

上場会社名　ソーダニッカ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　8158　URL　http://www.sodanikka.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 長洲 崇彦
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部門長　(氏名) 安江 正人　TEL 03-3245-1803

四半期報告書提出予定日　平成25年11月13日　配当支払開始予定日　平成25年12月2日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	48,718	5.7	657	11.3	731	10.5	426	69.2
25年3月期第2四半期	46,108	△4.1	590	△20.0	662	△19.3	252	△48.1

(注)包括利益　26年3月期第2四半期　956百万円　(—%)　25年3月期第2四半期　△258百万円　(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	17.11	—
25年3月期第2四半期	10.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	49,173	17,711	36.0
25年3月期	51,567	16,918	32.8

(参考) 自己資本　26年3月期第2四半期　17,711百万円　25年3月期　16,918百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
26年3月期	—	6.50			
26年3月期(予想)			—	6.50	13.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	99,000	5.9	1,400	14.9	1,500	12.2	880	15.3	35.27

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	25,168,000 株	25年3月期	25,168,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	217,189 株	25年3月期	212,674 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	24,952,966 株	25年3月期2Q	24,962,047 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
(1) 経営成績に関する説明 …… 2
(2) 財政状態に関する説明 …… 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3

2.サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3

3.四半期連結財務諸表 …… 4
(1) 四半期連結貸借対照表 …… 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
(継続企業の前提に関する注記)…… 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) …… 9
(セグメント情報等) …… 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済・金融政策への期待感からの円安や株価の上昇により企業収益や個人消費も緩やかながら持ち直してまいりました。

当社グループに関係の深い化学工業界につきましては、円安基調に伴う輸出環境の改善は浸透してきているものの、国内製造業においては輸入原材料価格の上昇、製品価格の下落等、市場構造に大きな変化はみられず、依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、引き続き化学品と機能材の二事業を基軸とする経営を推進するとともに、東アジア地域を中心とした海外取引の拡大と再生可能エネルギー関連資材の販売等、環境関連ビジネスの強化に努めてまいりました。

この結果、当第２四半期連結累計期間の業績は、売上高487億１千８百万円（前年同期比5.7%増)、営業利益６億５千７百万円（同11.3%増)、経常利益７億３千１百万円（同10.5%増)、四半期純利益４億２千６百万円（同69.2%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

【化学品事業】

無機薬品につきましては、主力商品のか性ソーダ及び硫酸は減収となりましたが、脱硫用途の水酸化マグネシウムは増収となりました。官公庁向けの活性炭は猛暑の影響もあり増収となりましたが、水処理薬剤のポリ塩化アルミニウムは減収となりました。また、洗剤用途のソーダ灰は需要の減少により減収となりました。

有機薬品につきましては、製紙用ラテックス、エチレングリコール及び機能性溶剤は増収となりましたが、建築用シリコーン及び製紙向けの加工でんぷん類は減収となりました。

この結果、化学品事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ0.6%減の329億３千４百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ2.0%増の11億２千９百万円となりました。

【機能材事業】

合成樹脂につきましては、ポリプロピレン樹脂は増収となりましたが、工業用製品はメーカー撤退が要因となり減収となりました。

また、フィルム類につきましてはポリプロピレンフィルム、ポリエチレンフィルム及びナイロンフィルムが増収となりました。

機器類につきましては、太陽光パネル等の電気関連機器は大幅に増収となりましたが、回転機器及び化学装置関連機器は減収となりました。

その他の資材につきましては、地盤改良用のグラウト材料及び飛灰用のキレート剤は復興需要もあり増収となりました。

この結果、機能材事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ20.9%増の151億１千９百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ94.4%増の３億９千６百万円となりました。

【その他事業】

その他の事業につきましては、連結子会社の曹達日化商貿(上海)有限公司の増収により、売上高は前年同期に比べ42.6%増の６億６千４百万円、セグメント利益（営業利益）はPT.SODA NIKKA INDONESIAの販管費が増加したことにより、前年同期に比べ50.6%減の４百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

【財政状態の分析】

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ23億9千4百万円減少いたしました。

増減の主なものは資産の部では、現金及び預金が7億9千7百万円、投資有価証券が8億3千万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が27億6千5百万円、商品及び製品が12億4千4百万円それぞれ減少いたしました。負債の部では、繰延税金負債が3億7千7百万円増加し、支払手形及び買掛金が23億1千万円、短期借入金が10億円それぞれ減少いたしました。純資産の部では、その他有価証券評価差額金が4億7千8百万円増加しております。

【キャッシュ・フローの状況】

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ8億3千8百万円増加し52億2千万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは19億6千4百万円の増加となりました。これは税金等調整前四半期純利益が7億3千1百万円でありましたが、売上債権の減少が29億1千8百万円、たな卸資産の減少が12億5千8百万円、仕入債務の減少が23億1千6百万円となったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1千6百万円の増加となりました。これは主に敷金及び保証金の回収による収入3億6百万円、同差入による支出2億1千3百万円、有形固定資産の取得による支出8千2百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは11億7千4百万円の減少となりました。これは主に短期借入金の返済による支出10億円及び配当金の支払額1億6千3百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の日本経済の見通しにつきましては、政府主導による経済・金融政策の実体経済への反映や円安基調に伴う輸出の増加が期待される一方で、輸入原材料価格の上昇、新興国における経済の減速など懸念材料も散見されます。

このような事業環境のもと、当社グループは引き続き化学品と機能材の二事業を基軸とする経営を推進するとともに、財務体質の強化と経営の効率化を図り、収益力の向上に向けて邁進する所存でございます。

平成26年3月期の通期の連結業績予想につきましては、平成25年5月9日付公表の数値に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,423	5,220
受取手形及び売掛金	33,738	30,972
商品及び製品	4,426	3,181
繰延税金資産	153	223
その他	160	163
貸倒引当金	△73	△75
流動資産合計	42,828	39,685
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	400	427
土地	1,011	1,011
その他（純額）	73	67
有形固定資産合計	1,484	1,506
無形固定資産	218	210
投資その他の資産		
投資有価証券	6,262	7,093
長期貸付金	47	49
その他	916	694
貸倒引当金	△190	△66
投資その他の資産合計	7,036	7,770
固定資産合計	8,739	9,488
資産合計	51,567	49,173

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,874	23,564
短期借入金	6,000	5,000
未払法人税等	268	338
賞与引当金	235	240
役員賞与引当金	28	21
その他	698	366
流動負債合計	33,104	29,530
固定負債		
繰延税金負債	204	581
再評価に係る繰延税金負債	225	225
退職給付引当金	534	545
その他	581	580
固定負債合計	1,544	1,932
負債合計	34,649	31,462
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,130	3,130
利益剰余金	8,957	9,221
自己株式	△58	△59
株主資本合計	15,791	16,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	993	1,471
繰延ヘッジ損益	13	△5
土地再評価差額金	116	116
為替換算調整勘定	3	73
その他の包括利益累計額合計	1,126	1,656
純資産合計	16,918	17,711
負債純資産合計	51,567	49,173

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
売上高	46,108	48,718
売上原価	43,071	45,504
売上総利益	3,037	3,213
販売費及び一般管理費	2,446	2,556
営業利益	590	657
営業外収益		
受取利息及び配当金	84	87
貸倒引当金戻入額	22	12
その他	17	18
営業外収益合計	124	118
営業外費用		
支払利息	39	29
売上割引	5	5
その他	8	9
営業外費用合計	53	44
経常利益	662	731
特別利益		
移転補償金	16	－
特別利益合計	16	－
特別損失		
投資有価証券評価損	248	－
事務所移転費用	6	－
特別損失合計	255	－
税金等調整前四半期純利益	422	731
法人税、住民税及び事業税	166	330
法人税等調整額	3	△25
法人税等合計	170	304
少数株主損益調整前四半期純利益	252	426
少数株主利益	－	－
四半期純利益	252	426

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	252	426
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△492	477
繰延ヘッジ損益	△8	△18
為替換算調整勘定	△9	70
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	△510	530
四半期包括利益	△258	956
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△258	956
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	422	731
減価償却費	72	77
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△23	△121
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△9	10
受取利息及び受取配当金	△84	△87
支払利息	39	29
投資有価証券評価損益（△は益）	248	―
売上債権の増減額（△は増加）	2,352	2,918
たな卸資産の増減額（△は増加）	△114	1,258
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,600	△2,316
その他	285	△315
小計	1,588	2,185
利息及び配当金の受取額	84	88
利息の支払額	△47	△51
移転補償金の受取額	16	―
移転費用の支払額	△6	―
法人税等の支払額	△202	△259
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,432	1,964
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△32	△82
無形固定資産の取得による支出	△7	△28
投資有価証券の取得による支出	△8	△9
敷金及び保証金の差入による支出	△4	△213
敷金及び保証金の回収による収入	47	306
その他	76	42
投資活動によるキャッシュ・フロー	69	16
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△5	△1,000
配当金の支払額	△173	△163
その他	△59	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△238	△1,174
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	32
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,252	838
現金及び現金同等物の期首残高	4,126	4,382
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,379	5,220

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第２四半期連結累計期間（自　平成 25 年４月１日　至　平成 25 年９月 30 日）

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第２四半期連結累計期間（自　平成 25 年４月１日　至　平成 25 年９月 30 日）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成 24 年４月１日　至　平成 24 年９月 30 日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	33,139	12,503	465	46,108	―	46,108
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	166	166	△ 166	―
計	33,139	12,503	632	46,275	△ 166	46,108
セグメント利益	1,107	203	8	1,320	△ 729	590

(注) 1. セグメント利益の調整額△729 百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　平成 25 年４月１日　至　平成 25 年９月 30 日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	32,934	15,119	664	48,718	―	48,718
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	335	335	△ 335	―
計	32,934	15,119	1,000	49,053	△ 335	48,718
セグメント利益	1,129	396	4	1,530	△ 872	657

(注) 1. セグメント利益の調整額△872 百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。